

## はじめに

日本農業普及学会は、東日本大震災の発生から2年を経とうとする2013年3月の大会で『震災アーカイブ特別委員会』を設置した。東日本大震災で被災した農業・農村の現場において普及指導員が何を感じ、どのように行動したか、普及指導員の眼と体験を通じた活動の記録を収集して取りまとめるためである。この報告書は、2013年度から2015年度までの3か年間、同特別委員会が調査活動を続けた成果を取りまとめたものである。

本学会が、なぜ、被災現場の普及指導員に注目することにしたのか。周知のように、普及指導員はそれぞれの赴任地において農業の技術・経営に関する専門家として活動している。担当する現場で何らかの異変があっても、職務上、容易にそこから立ち去るわけにはいかない。この報告書は、大震災ならびに原発の深刻事故に直面し、持ち場に踏み止まって奮闘した普及指導員たちの臨場記録でもある。そこには、大災害という異常時にあって、次々と襲いかかる問題やストレスをくぐり抜けつつ職務に立ち向かう普及指導員たちの姿と胸の内が率直に語られている。

この報告書は、多くの人々の協力・協働によってできあがったものである。

まず、被災地担当の普及指導員へのアンケートは、皆様が復旧・復興支援に忙しい2013年8月に実施させて頂いた。体験記録という性質上、当事者の記憶が薄れないうちに収集しなければならないからで、それだけ関係の皆様には負担をおかけした。が、さいわい、この事業の意義を受け止めてくださり、10都府県112名の方々からご回答をいただいた。また、2015年8～9月には岩手県、宮城県、福島県において5回にわたって都合16名の方々に直接面接して聞き取り調査を実施した。以上の方々ならびにアンケートや聞き取り調査の企画と実施に協力くださった全国農業改良普及職員協議会ならびに各都府県農業改良普及職員協議会、普及主務課の関係各位に対して、深く感謝申し上げたい。

この報告書は少ない予算で長期間の尽力を惜しまなかった人々によってできあがった。さらに、聞き取り調査に協力を申し出て下さった株式会社農林中金総合研究所ならびに同研究所研究員の小針美和氏、内田多喜生氏、行友弥氏の調査実施への献身的なご協力なくしては出版にたどり着けなかった。末筆になるが、日本農業普及学会震災アーカイブ特別委員会の粕谷和夫委員長、岩元明久、太田文雄、藤田康樹の各委員のご尽力に感謝し、出版をともに喜びたい。

2016年3月14日

日本農業普及学会会長 佐藤 了